

すずきちから
鈴木主税の

「弘化四年 御用日記」について

この日記は、二十歳の春嶽の生き生きとしたエピソードが記されていると同時に、書き手である側向頭取鈴木主税の人物像も浮かびあがる好資料です。

詳しい日記の記述や読みどころについては、外側のパネルと卓上の翻刻をご覧ください。

○藩主時代の御用日記の残存状況

1838年 (天保9)	39年	40年	41年	42年	43年	44年 (弘化元)	45年	46年	47年
「少傅日録抄」(松平文庫) 天保9年9月4日(在江戸)～12年					天保14年6月11日(初入国)～ 弘化2年4月5日		弘化2年11月1日～ 弘化3年5月12日		
							「弘化四年 御用日記」		

(注1) 「弘化四年 御用日記」は、1917年(大正6)に謄写され、この段階では、鈴木主税の縁戚にあたる県内の旧家に所蔵されていました。この写しは、「越前史料」として現在、国文学研究資料館に所蔵されています。

(注2) 日記の記述は1月1日から3月18日までで、1917年には残存した3月5日後半から18日前半が欠落しています。

(注3) これ以外に、隠居後の1859年(安政6)から68年(慶応4)までの10年間の御用日記が、松平文庫にまとまって残っています。